

国立大学法人横浜国立大学の平成26年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

横浜国立大学は、「人々の福祉と社会の持続的発展に貢献する」ことを大学の理念として、「創造性ある高度専門職業人養成」を責務とし、「実践的学術の国際拠点」として充実することを目標として掲げ、世界の持続的発展にとって障害となる諸課題等に積極的に応える方針を共有し、社会的責任を果たすことを目指している。第2期中期目標期間においては、各教育組織において、育成人材像を示してその体系的教育を実施すること等を目標としている。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、主体性を養うキャリア教育実践のため、「Wake up！プロジェクト」科目を新たに開講するとともに、研究活動の活性化を図るため、YNU 研究貢献賞（外部資金獲得研究者表彰）を創設するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（戦略的・意欲的な計画の状況）

第2期中期目標期間において、都市イノベーション、安全工学、環境リスク等の教育研究の強みを集結した「リスク共生学」分野等の重点分野の先端的研究を行う拠点を設置し、関係する研究者を集結させ、融合的な研究を推進する戦略的・意欲的な計画を定めて積極的に取り組んでおり、平成26年度においては、世界をリードする先進的な研究分野において、海外の大学や研究機関、社会と連携しながら国内外の著名な研究者を集結させ、学術系列の枠を越えた学際的領域における実践研究の推進により「リスク共生学」を確立するとともに、世界的研究拠点を形成することを目的として「先端科学高等研究院」を設置（平成26年10月1日）し、研究活動を開始している。

（機能強化に向けた取組状況）

将来計画を含む教育研究の改善を戦略的に実施するため、新たに戦略企画室を設置し、戦略的な大学マネジメント体制を構築するとともに、YNU 改革戦略プロジェクトチームや新学部設置ワーキング・タスクフォース等の各検討組織において、理工系の専門性と文系の知見を併せ持つ分野横断型の理工系グローバルリーダーを養成する新学部の設置を検討しているほか、大学全体のグローバル化を図るための海外協働教育研究拠点の設置を平成25年度から進めており、平成26年度はブラジルに設置している。

2 項目別評価

I. 業務運営・財務内容等の状況

（1）業務運営の改善及び効率化に関する目標

（①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化）

平成26年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 学長のリーダーシップによる戦略的な大学マネジメント体制の構築

将来計画を含む教育研究の改善に関し戦略的に企画を実施するため、「戦略企画室」を新たに設置し、新たな組織の設置に向けた検討や制度整備、新学部設置に向けたワーキンググループの運営等を実施するなど、学長のリーダーシップによる戦略的な大学マネジメント体制を構築している。

平成 26 年度の実績のうち、下記の事項に**課題**がある。

○ 学生定員の未充足

大学院専門職学位課程について、学生収容定員の充足率が 90 %を満たさなかったことから、今後、速やかに、入学者の学力水準に留意しつつ、定員の充足に向けた取組に努めることが望まれる。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 22 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

- ①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、
- ③資産の運用管理の改善

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 7 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

(3) 自己点検・評価及び情報提供に関する目標

- ①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進

平成 26 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ メールマガジンによる国際交流・留学生支援情報の発信

学内の国際交流関連情報を在学生に広く知ってもらうためのメーリングリスト「国際交流メールマガジン"Global Campus"」の運用を開始するとともに、留学生に対する有益情報を提供するためのメールマガジン「YNU 留学生ネット isynu-net」を発行するなど、国際交流や留学生支援に係る情報提供の充実を図っている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載7事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

(①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守)

平成26年度の実績のうち、下記の事項に課題がある。

○ **研究費の不適切な経理**

研究費の不適切な経理が確認されていることについては、原因を究明して対策を講じるなど、再発防止に向けた取組が行われているが、不正防止計画の見直しを行うなど、引き続き積極的な取組を行うことが求められる。

○ **個人情報の不適切な管理**

平成27年度入学式において名簿を紛失する事例、教育人間科学部において個人情報が記載された書類を誤って掲示する事例、職員が個人情報が記録されたUSBメモリーを紛失する事例があったことから、原因分析に基づく再発防止とともに、個人情報保護に関するリスクマネジメントに対する積極的な取組が望まれる。

【評定】 中期計画の達成のためにはやや遅れている

(理由) 年度計画の記載22事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、平成25年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が行われているが、研究費の不適切な経理があったこと等を総合的に勘案したことによる。

II. 教育研究等の質の向上の状況

平成26年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ **主体性を養うキャリア教育の実践**

新入生に対し、主体的に学ぶ意識と行動力を早期に身に付けさせるため、PBL (Project Based Learning) 方式を採用し、現実的なテーマに履修生がチームで取り組み解決策や企画案を提案するなど、チームで解を求める活動を通じて「主体的に学ぶ」とはどのようなことなのかを自己発見的に修得する「Wake up! プロジェクト」を産業界の協力の下、新たに開講しており、履修生からのアンケートにて高い満足度を得ている。

○ 英語力向上のための自習用学習システムの導入

海外留学や TOEFL・TOEIC 対策等、英語力向上のため、学生の自学自習用として「YNU ネットラーニング英語学習システム」の運用を開始しており、英語の「音」にフォーカスした、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能をバランス良く学習できるシステムを構築している。

○ 研究活動活性化のための報奨制度の創設

教員の研究活動を活性化するため、前年度に研究代表者として一定の外部資金を獲得し、今後も優れた研究成果を上げることが期待できると認められる者に対し表彰状と報奨金を授与する「YNU 研究貢献賞（外部資金獲得研究者表彰）」を創設しており、平成 26 年度は 30 名を表彰している。

○ 副専攻プログラムの開設による次世代のグローバル人材育成

すべての授業を英語で行い、留学生と一緒にグループワークやプロジェクト型の実習を中心として学習を行う「グローバル PLUS ONE 副専攻プログラム」を新規開設しており、自文化理解とアイデンティティーに基づく国際的なチームリーダーの育成という目標に向けた取組を推進している。